

(1) 第1回委員会説明資料 (一部加筆)

(1) これまでの総合都市交通体系調査

2) これまでの総合都市交通体系調査の概要

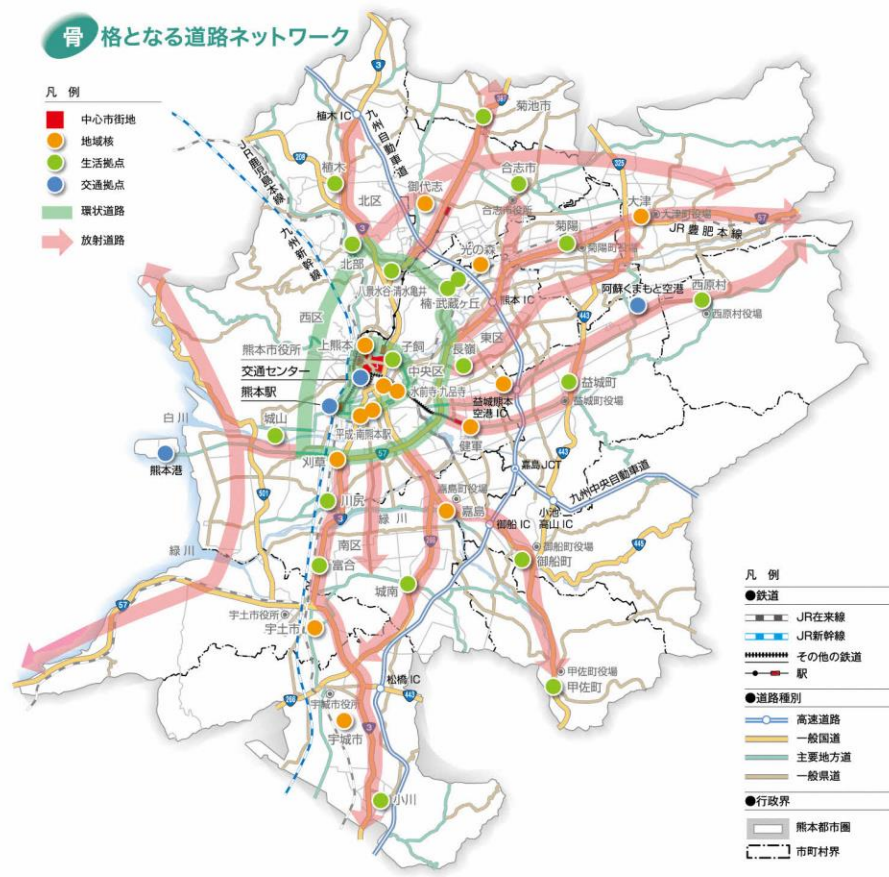
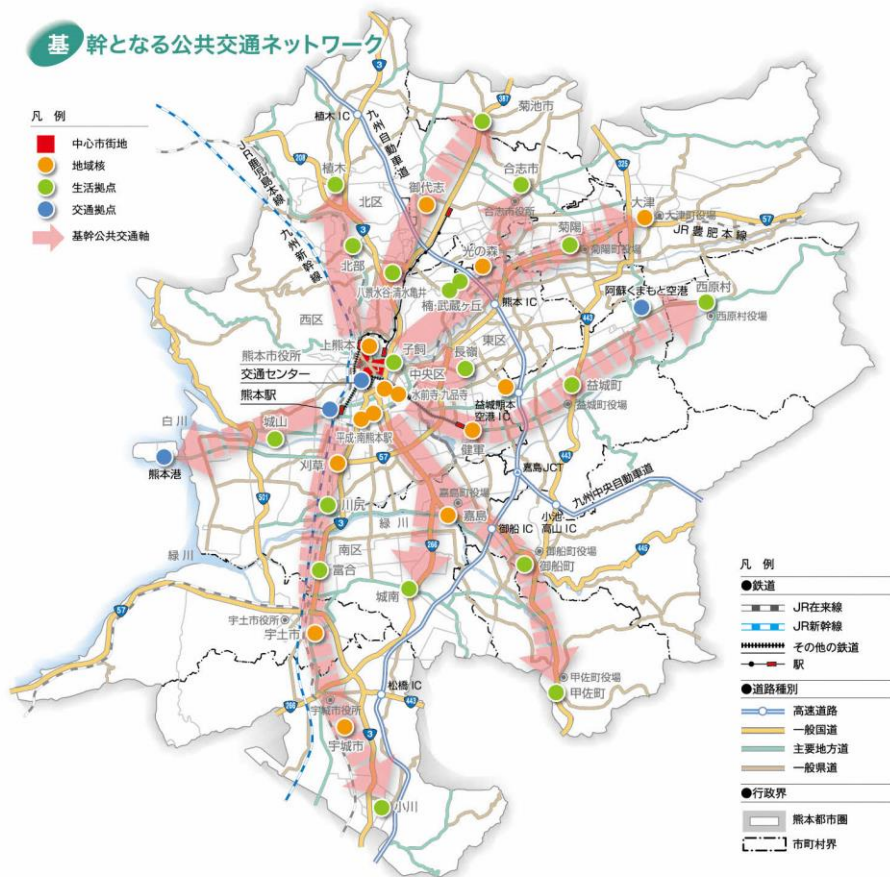
		第1回	第2回	第3回	第4回
実地調査年		S48	S59	H9	H24
調査地域		熊本市を中心とする 1市9町	熊本市を中心とする 2市18町1村	熊本市を中心とする 2市14町1村	熊本市を中心とする 5市6町1村
都市圏人口		約57万人	約87万人	約98万人	約104万人
交通計画の方向 (基本方針)		-	1.広域交通への対応 2.都市圏内骨格交通軸の形成 3.生産・流通拠点の連携確保 4.都市軸の活力向上 5.生活拠点の進展への対応	1.都市圏構造を形成する交通体系の形成 2.公共交通の有効利用による適正な機能分担 3.効率的な道路・街路網の整備 4.基礎的な交通手段である徒歩、自転車利用の促進 5.交通手段の連携 6.交通需要の適正化	「転換」「連携」「再構築」によるベストミックス ・過度に自動車利用に依存してきた交通体系を見直し、住民意識の転換や関係市町村の広域連携のもと地域特性に応じた公共交通ネットワークや道路空間の再構築により、利便性と効率性を兼ね備えた新たな交通体系（ベストミックス）を構築
主な提案施策	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・都市内幹線道路： <ul style="list-style-type: none"> ①九州縦貫道 ②熊本北バイパス ③熊本東バイパス ④菊陽バイパス ・都市内幹線街路： <ul style="list-style-type: none"> ⑤近見沖新線 ⑥熊本駅北部線 ⑦熊本駅新外線 ⑧新外秋津線 など <長期的構想> ・船場神水線、野口清水線、本荘御幸線 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・西回り道路（仮称）、熊本駅池上線、保田窪菊陽線、御領秋津線、国道3号（植木、富合工区）、国道57号（大津～阿蘇間） など 	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格幹線道路：熊本環状道路、熊本天草幹線道路、中九州横断道路、有明海沿岸道路 ・幹線道路網・街路：(都)上熊本細工町線、春日池上線、(仮)新水前寺帯山線 	<ul style="list-style-type: none"> ・2環状線11放射道路網 <環状道路> ・(都)上熊本弓削線、(都)池田町花園線、熊本西環状道路、国道57号熊本東バイパス など <放射道路> ・国道3号植木バイパス、中九州横断道路、熊本天草幹線道路、有明海沿岸道路 など
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本駅～都心部、東部地区の専用軌道化 ・バスターミナル（熊本駅、水前寺駅通り、健軍付近） ・バスターミナルを中心とするバス路線網の再編 ・水前寺駅のターミナル化 <長期的構想> ・豊肥本線と熊本電鉄を結ぶ鉄道 	<ul style="list-style-type: none"> ・新駅の設置（東海学園前駅、近見駅、熊本工大前駅、新水前寺駅(市電との乗り継ぎ利便性向上含む)、弓削駅、楠駅) ・市電の地下化（交通局前～熊本駅前、水道町前～藤崎宮前) ・連続立体化（鹿児島本線、豊肥本線) ・ターミナル（熊本駅、神水) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな基幹公共交通ネットワークの整備（熊本空港方面、熊本港方面、帯山・長嶺方面 など) ・市電のLRT化 ・熊本電鉄の高機能化（車両のLRV化) ・相互乗り入れ（JR・熊本電鉄・市電) ・バス専用レーン、公共交通優先信号、バス接近表示システムの整備 ・乗り継ぎ割引制度の導入 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹公共交通8軸の整備 <熊本市電> ・既存区間の機能強化（多両編成化 など) ・延伸（益城・空港方面、田崎城山方面 など) <熊本電鉄> ・既存区間の機能強化（運行本数 など) <路線バス> ・乗換拠点整備（各方面） など

(2) 現在のマスタープランの概要

熊本都市圏の交通ネットワークの将来像として、公共交通は「放射8方向の基幹公共交通軸」、道路は「2環状11放射道路網」を形成することとしている。

【公共交通網ネットワーク：放射8方向の基幹公共交通軸】

【道路ネットワーク：2環状11放射の骨格幹線道路網】

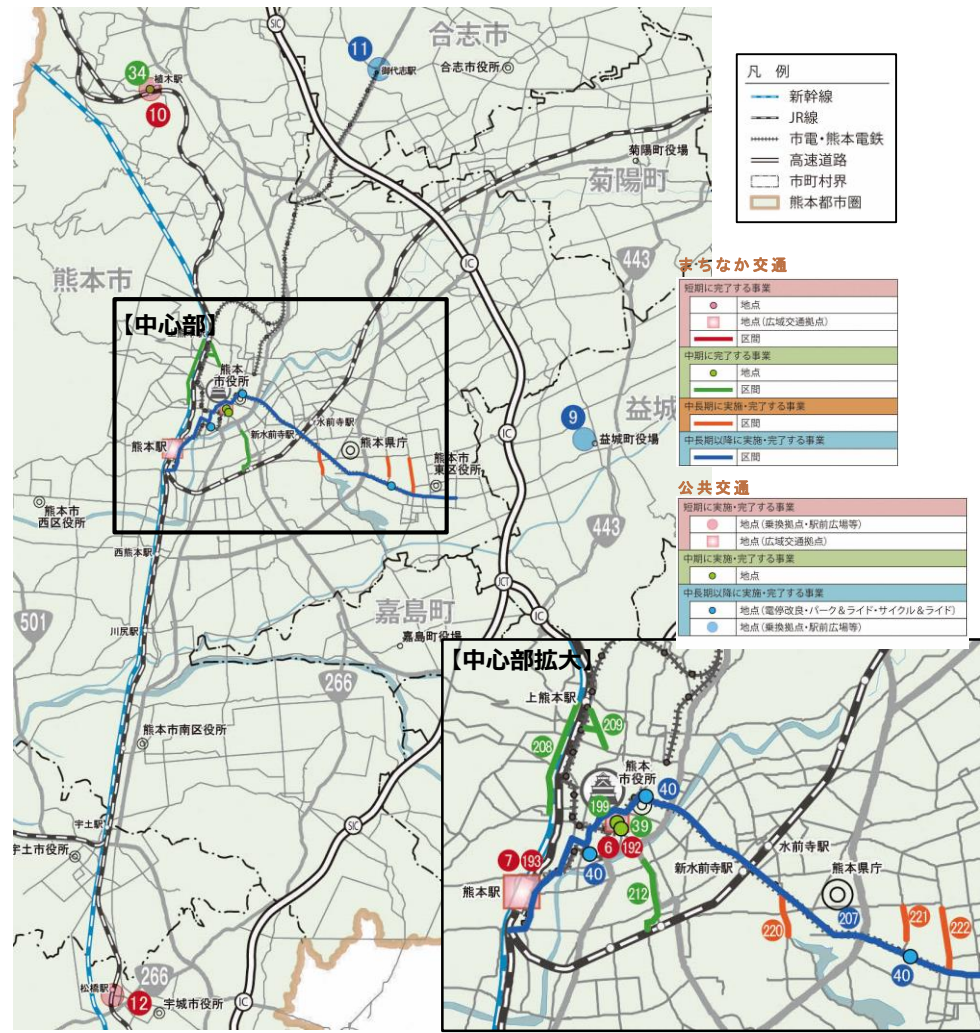
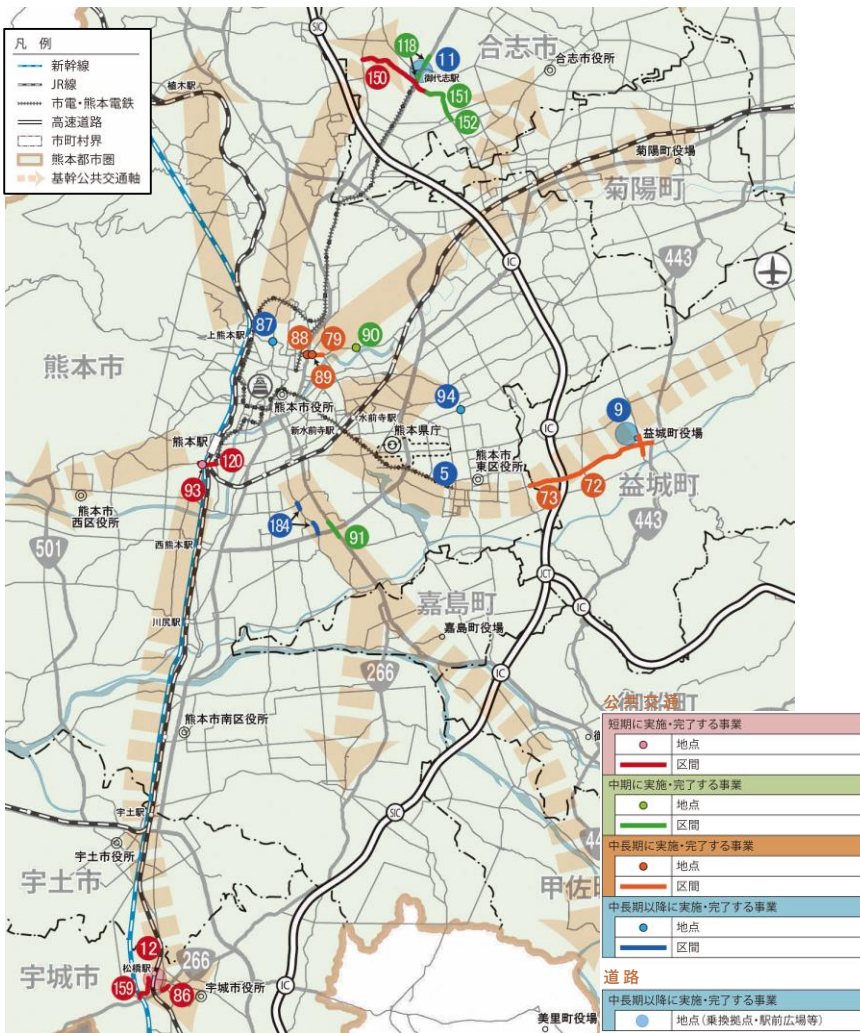


(3) 現在の総合交通戦略 (アクションプラン) について

「マスタープラン」の実行計画である、「熊本都市圏総合交通戦略 (アクションプラン) (H30.11)」に基づく施策について、関係者が連携して計画的に推進している。

連携パッケージ施策位置図 (公共交通×道路)

連携パッケージ施策位置図 (公共交通×まちなか交通)



(3) 現在の総合交通戦略（アクションプラン）について

- 総合交通戦略に基づく施策は、毎年、関係機関とともに進捗状況を確認。
- 短期施策及び総合交通戦略の完了後、成果指標の達成状況を確認しながら評価。

記号の説明

- : 管理、評価の実施
- ※ : 必要に応じて実施
- ◎ : 開催
- △ : 必要に応じて開催

【熊本都市圏総合交通戦略施策の進捗管理表】

西暦	都市交通 マスター プラン (2015年～ 2035年)	Plan	Do (事業の実施)				Check			Action	作業 部会	協議会
		総合交通 戦略	短期	中期	中長期	以降	進捗管理 (施策)	成果指標 管理	評価	見直し・ 改善		
2015年度	策定											
2016年度												
2017年度												
2018年度		策定										
2019年度							●			●※	△	△
2020年度							●			●※	△	△
2021年度							●			●※	△	△
2022年度							●	●	●	●※	◎	◎
2023年度							●			●※	△	△
2024年度							●			●※	△	△
2025年度							●			●※	△	△
2026年度		次期戦略					●	●	●	●	◎	◎
以降												

(3) 現在の総合交通戦略（アクションプラン）について

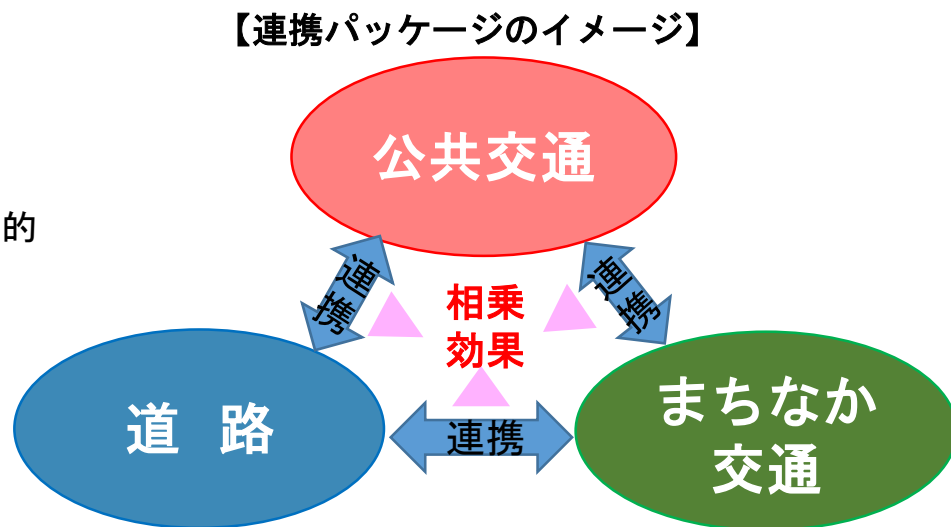
総合交通戦略の特徴

(1) 基本施策の横断的な連携

【連携パッケージ】

○横断的・戦略的に組み合わせることで相関的・相乗的に効果を発揮する施策をパッケージ化

- ◆「公共交通」×「道路」
- ◆「道路」×「まちなか交通」
- ◆「公共交通」×「まちなか交通」



(2) 実施時期

○実施時期は「短期」「中期」「中長期」「以降」で整理

- 1 短期（2020年度(R2)までに完了する施策）
- 2 中期（2023年度(R5)までに完了する施策）
- 3 中長期（2025年度(R7)までに完了する施策）
- 4 以降（2026年度(R8)以降に継続する施策）

(3) 実施施策

	公共交通	道路	まちなか交通	計
短期	15(14)	35(29)	7(7)	57(50)
中期	4(3)	29(3)	15(6)	48(12)
中長期	1(0)	16(0)	4(0)	21(0)
以降	40(4)	44(3)	8(1)	92(8)
合計	60(21)	124(35)	34(14)	218(70)

※その他「実施検討施策」が7施策 ()完了施策

(3) 現在の総合交通戦略 (アクションプラン) について

施策の進捗状況(位置図(主な完了施策))

No.6 No.192 桜町バスターミナルの整備

No.199 シンボルプロムナード等の整備

No.39 電停の改良(辛島町電停)

No.197 市電軌道の緑化
(花畑町電停～辛島町電停)

No.193 熊本駅白川口駅前広場の整備

No.201 サイクル&ライト用の駐輪場整備(熊本駅)

No.120 県道熊本高森線
(都)熊本駅城山線)の整備

No.91 国道266号
(熊本市南区出仲間8丁目～田井島交差点)改良

No.12 交通結節点の整備(松橋駅前広場)

No.86 国道266号
(松橋工区 宇城市松橋町松橋 松橋交差点)改良

No.82 北熊本スマートインターチェンジ整備

No.65 国道57号(瀬田拡幅 大津町瀬田)整備

No.203 市道子飼本町大江6丁目第1号線
(熊本市中央区大江渡鹿交差点～子飼橋)
自転車走行空間整備

No.105 県道熊本嘉島線(上仲間工区 嘉島町上仲間)整備

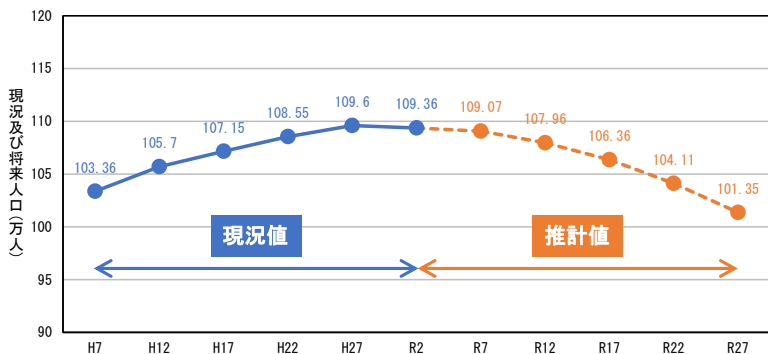
凡例

- 短期に完了する施策
- 中期に完了する施策
- 中長期以降に継続する施策

(4) 今回調査の計画課題や状況変化

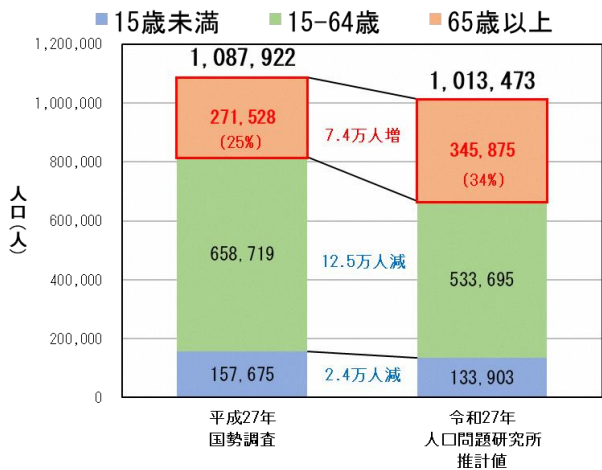
1) 人口減少・少子高齢化の進展

- 令和2年には減少。将来的にも減少
- 高齢化率の増加（7.4万人増）



(資料) 各年国勢調査/国立社会保障・人口問題研究所

▲ 熊本都市圏の現況及び将来人口

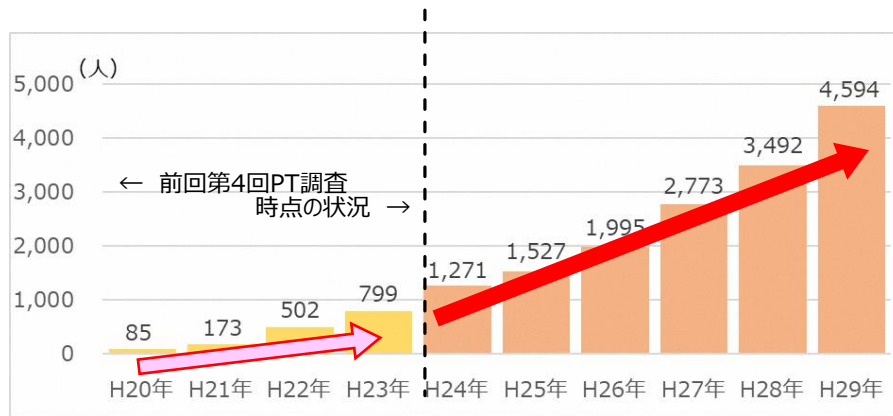


(資料) 各年国勢調査/国立社会保障・人口問題研究所 ※令和27年は推計値

▲ 熊本都市圏の年齢層別人口の推移

2) 高齢者の運転免許証自主返納

- 県内高齢者の運転免許証自主返納申請者数は増加傾向



区分 年次	～64歳		65歳～		合計	
	申請取消者数	経歴証明書交付件数	申請取消者数	経歴証明書交付件数	申請取消者数	経歴証明書交付件数
H20年	6	0	85	6	91	6
H21年	11	0	173	72	184	74
H22年	16	1	502	163	518	164
H23年	41	4	799	221	840	225
H24年	77	53	1,271	698	1,348	751
H25年	96	70	1,527	1,002	1,623	1,072
H26年	140	99	1,995	1,344	2,135	1,443
H27年	165	120	2,773	1,788	2,938	1,908
H28年	167	113	3,492	2,341	3,659	2,454
H29年	219	169	4,594	2,991	4,813	3,160
H30年8月	93	60	3,481	2,240	3,574	2,300

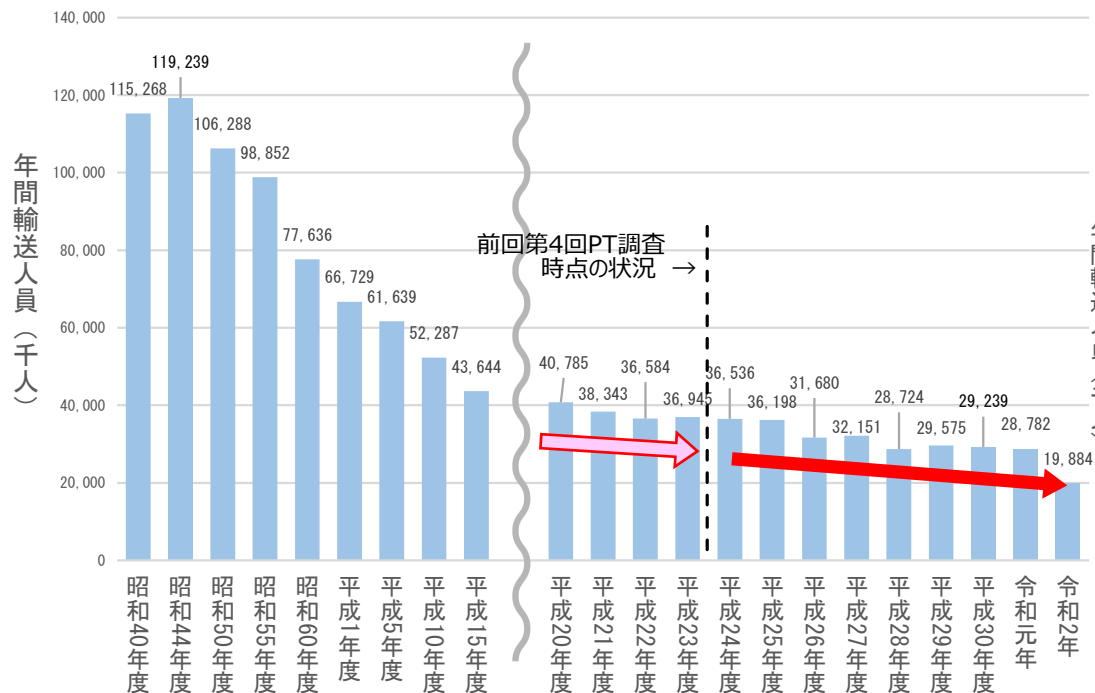
(資料) 高齢者の運転免許証自主返納(H30)より (熊本県警察本部運転免許課)

▲ 熊本県の運転免許証自主返納申請者数の推移

(4) 今回調査の計画課題や状況変化

3) 路線バス利用者の減少

● 路線バス利用者は長期間にわたって減少傾向

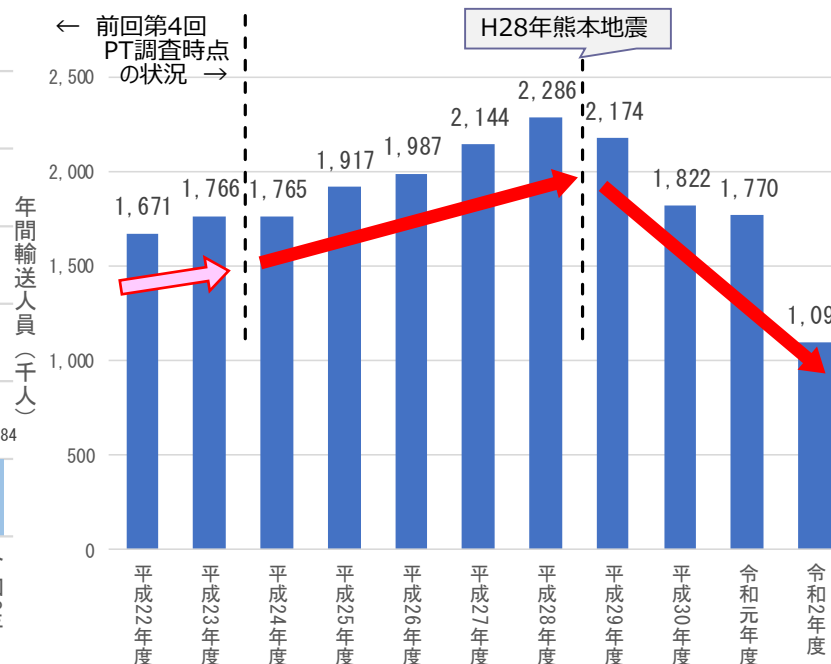


(資料)熊本県地域公共交通計画 (R4.3) (九州運輸要覧)より

▲ 熊本県の乗合バス年間輸送人員の推移

4) 鉄道利用者の減少

● 熊本地震後の利用者の減少



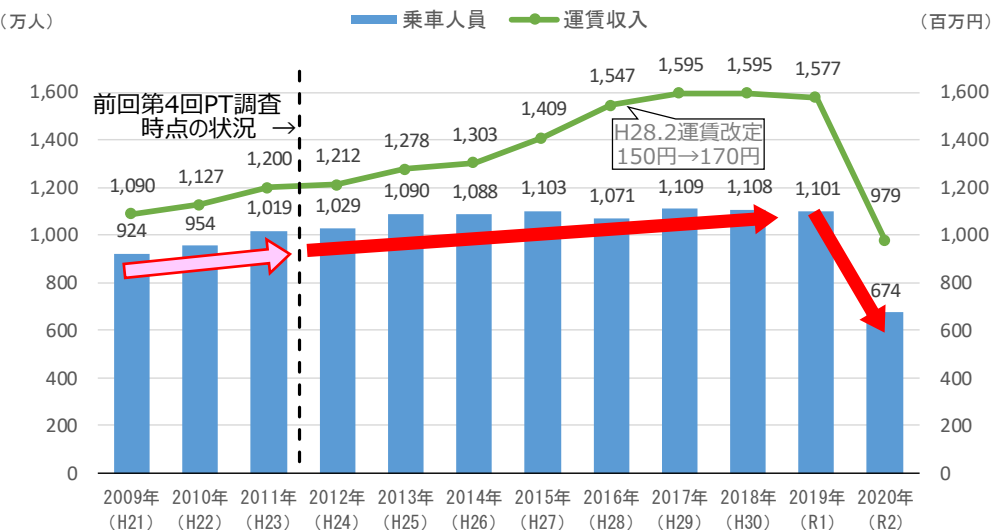
(資料)熊本県統計年鑑より

▲ 熊本電気鉄道の年間輸送人員の推移

(4) 今回調査の計画課題や状況変化

5) 市電利用者の減少

●市電乗車人員・運賃収入ともに急激に減少

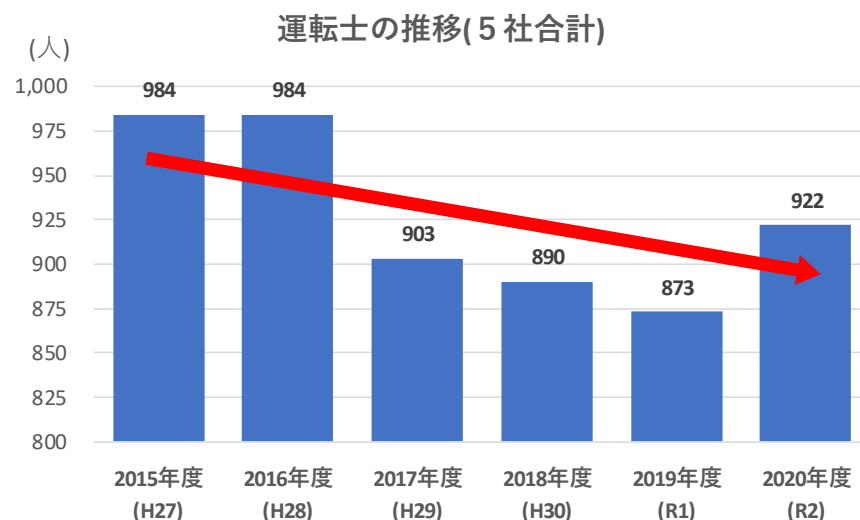


(資料)熊本市交通局

▲乗車人員と運賃収入の推移

6) バス運転士の推移

●バス運転士数は減少傾向



(資料)共同経営推進室

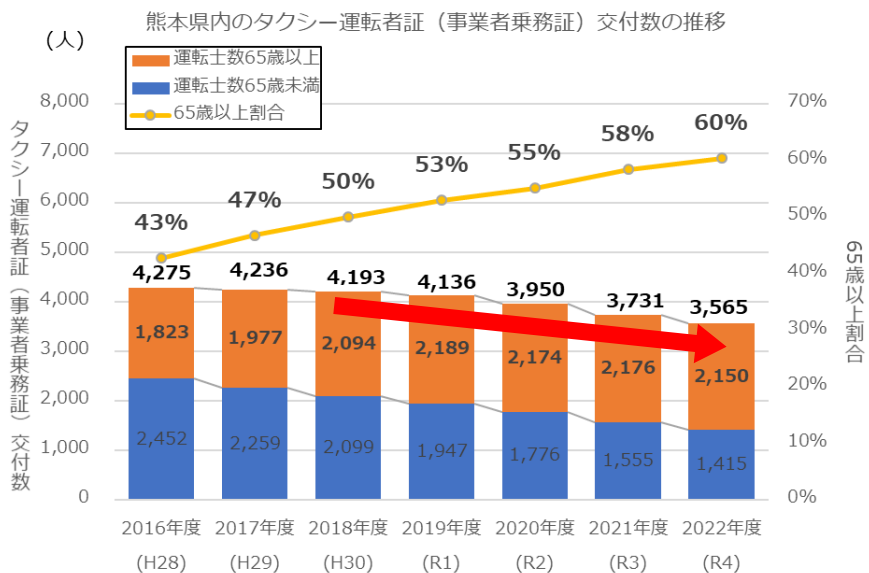
※ 2020年度は状況が改善したように見えるが、これは新型コロナウイルスの影響で稼働が減少した貸切バス、都市間高速バスの運転士が路線バスの運転業務に従事したことによるものであり、定員数916名に対し35名不足(2021年3月末時点)するなど運転士不足の状況は続いている。

▲共同経営交通事業者の運転士の推移

(4) 今回調査の計画課題や状況変化

7) タクシー運転士の推移

● タクシー運転士の数は減少傾向



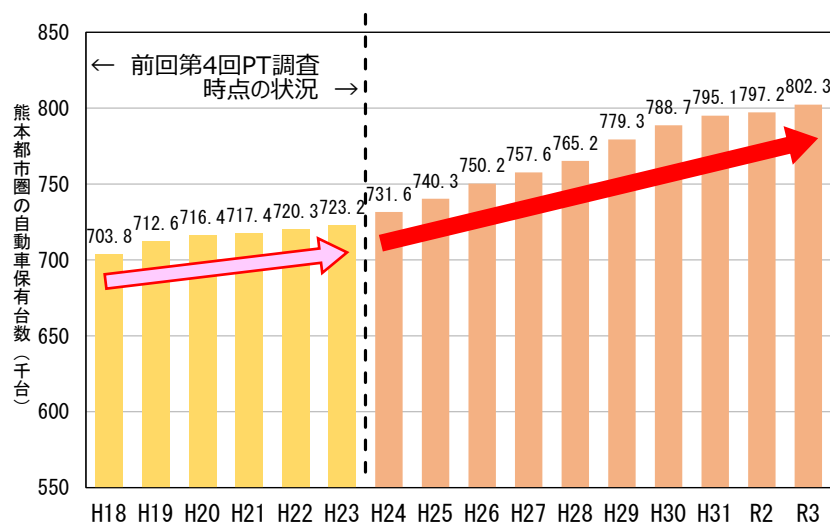
(資料)一般社団法人 熊本県タクシー協会

※各年度10月末時点の運転者証（事業者乗務証）交付数を集計

▲ 熊本県内のタクシー運転者証（事業者乗務証）交付数の推移

8) 自動車需要の増加

● 熊本都市圏の自動車所有台数は増加傾向



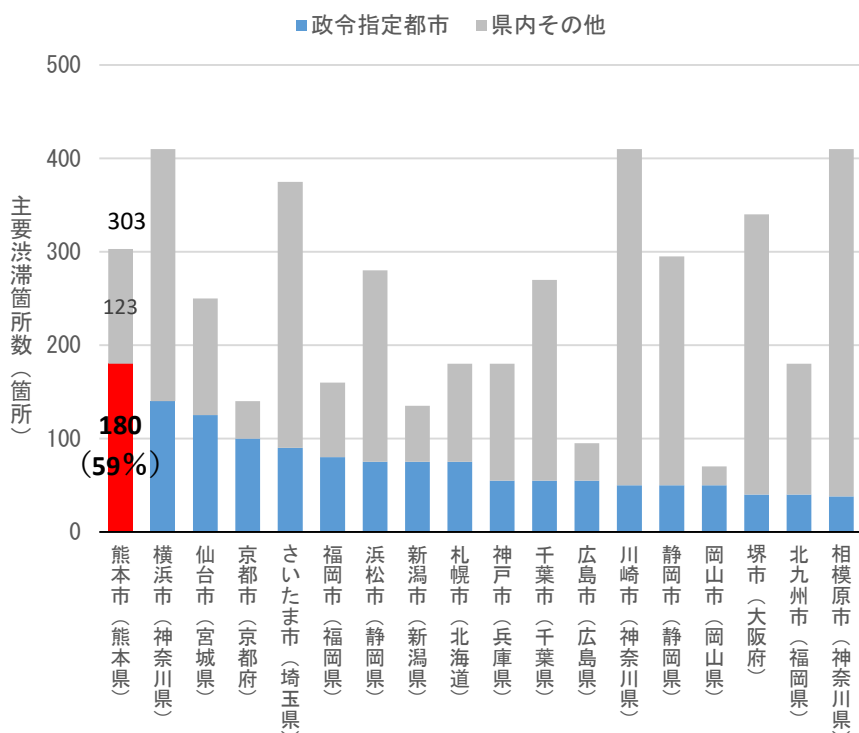
(資料)自動車保有車両数、軽自動車車両数 ※熊本都市圏の合計

▲ 熊本都市圏の自動車所有台数の変化

(4) 今回調査の計画課題や状況変化

9) 熊本市に集中する交通渋滞

- 県内渋滞箇所の大部分が熊本市に集中
- 熊本市の渋滞箇所数は全国の政令指定都市でワースト1位



(資料)熊本都市道路ネットワーク検討会資料、熊本県交通渋滞対策協議会資料 (R3.8.27) より

※3大都市圏に該当する政令指定都市 (東京、大阪、名古屋) は除いて集計

▲全国政令指定都市の渋滞箇所数 (主要渋滞箇所) ・密集率



(資料)熊本都市道路ネットワーク検討会資料、熊本県交通渋滞対策協議会資料 (R3.8.27) より

(4) 今回調査の計画課題や状況変化

11) 新たな計画の策定

●新広域道路交通計画の策定



(資料) 熊本県新広域道路交通計画 (2021年6月)

12) 大規模な産業立地動向

●菊池南部地域での大規模企業の進出

国内初！TSMC進出決定!!
半導体関連企業の集積が進む、熊本の未来

熊本は、スタートアップ企業、成長企業、成熟企業と、さまざまな企業が集まり、暮らしが豊かになっている。このまま、半導体関連企業も集まり、成長企業、成熟企業と、さまざまな企業が集まり、暮らしが豊かになる。熊本は、国内初！TSMC進出決定!!

2024年までに稼働予定!

さまざまな波及効果に期待!

- 新たな雇用の創出**
 - 熊本工場において約1700名を新規雇用
 - 熊本県内企業に約1000名の新規雇用
- 地場企業等の活性化**
 - 新規取引の創出、取引額の増加
 - 地場企業等の技術力向上
 - 新たな雇用の創出
- 定住人口・交流人口の増加**
 - 県内から優秀な人材が熊本へ
 - 海外から定住・交流する人口の増加
 - 人材の定住・交流による地域の活性化

熊本は世界有数の半導体関連企業の集積地。TSMCの進出を機に、さらなる発展を遂げる。

(資料)熊本県広報紙「県からのたより」



TSMCとは
TSMCは、台湾に本社を構える、世界最先端の半導体製造技術を持つ企業です。
9月決算の株価の時価総額は60兆円を超え、世界のトップ10に入る規模になります。
世界的な半導体不足もあり、各国が同社への誘致を働きかけています。

町長コメント
TSMCの工場建設に対し、心よりうれしく思います。
今回の計画は、大きな投資、多くの雇用などにより期待。熊本県の経済活性化に繋がるとだけでなく、半導体の国内生産という、国全体の経済活性化でも大きな役割を果たすものと理解しています。
この機会を活かすことなく、議会や熊本県などの関係機関と連携の上、しっかりと対応していきたいと考えています。

これまで、町と協力が進み、半導体関連企業の誘致を進めてきたことに加え、町の強みを生かすこと、今回の工場建設の決定により、今までの工業団地の定住人口が増え、本町の活性化につながります。
本件については、今後正式に決まる事があれば、改めてお知らせします。

(資料)広報 きくよう

第二原水工業団地にTSMCとソニーグループが工場建設を発表